OB・OG の交流広場に寄せて

島根大学卓球部 OB（2001 年入学／2005 年卒）
正海　三弘（しょうかい　みつひろ）です。

私は 1980 年に熊本県で生まれ、熊本電波高専を二度留年の末に退学し、その後に島根大学へ入学しました。中学から続けていた卓球も高専時代にはほとんど触れず、大学入学を機に再スタートを切りました。

大学では、顧問の織奥先生をはじめ、先輩方（山下さん、目次さん、野津さん、伊藤さん、佐々木さんなど）、同期（桐田君、田口君、光藤君、田久和さん、三熊さん、佐藤さん）、後輩たちに恵まれ、本当に充実した卓球部生活を送ることができました。
また、中国地区の他大学との交流も思い出深く、隣県の鳥取大学・谷口君、広島大学・西田君や畑瀬君等、たくさんの仲間たちと、試合だけでなく遊びや飲み会などで多くの時間をともに過ごしました。

■京都での全国国公立大会の思い出

中でも特に印象に残っているのが、京都での全国国公立大学大会です。
遠征続きの夏、節約のために関西出身の部員の実家に泊めてもらったのですが、初日の団体戦が終わったのが確か夜 9 時頃。そこから電車で移動して到着したのは深夜。ごはんを食べ、お風呂に入り、寝る頃にはすでに夜中の 2 時を回っていました。
翌朝は 6 時起床で再び会場へ。寝不足と疲労でなかなかハードな遠征でした。

この経験を教訓に、それ以降の遠征では近くのホテルを確保する方針に変わりました。
大変でしたが、今となってはいい勉強であり、楽しい思い出です。

■卒業後も続くかけがえのない縁

卒業後も、卓球部の仲間とは同窓会や結婚式で再会し、気づけばもう 20 年。
当時の仲間と今でも繋がっていられることは、私にとって何にも代えがたい財産です。

卓球部の後輩の結婚式の時です。

左上から桐田君、伊藤さん、正海。
下中央が村松さんです。

■卓球ラバーメーカー勤務、そして人生を変えた震災

大学卒業後は、卓球ラバーの製造メーカーに就職し、世界のトップ選手のラバー作りに携わるという貴重な経験をさせていただきました。
「このまま卓球に関わる仕事を続けたい」と思っていた矢先、私の人生を大きく揺さぶる出来事が起きました。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災。
テレビで連日伝えられる被災地の様子を見ているうち、「自分も現地に行かなければ」という思いが強くなり、会社を退職。4 月 20 日から約 40 日間、宮城県石巻市でボランティア活動に参加しました。

テント生活をしながら自炊をし、渡波地区でひたすら泥掻きを続けました。
がれきの山、流出した海鮮の腐敗臭、ハエの大量発生…。
撤去作業中には、ご遺体を発見する場面にも遭遇しました。
強烈な体験でしたが、そのとき「人生は有限だ」と心の底から実感しました。

「いつどうなるかわからない人生なら、やっぱり卓球に携わる仕事をしたい。」
テントの中で強くそう感じたことを、今でも鮮明に覚えています。

■卓球家 840 の創業と現在

ボランティアから戻った私は埼玉に戻り、「卓球家 840」を開業しました。
“日本一の卓球の街・八潮／草加をつくる”を理念とし、気づけば 14 年。
現在は八潮店と草加卓球場の 2 店舗を運営し、スタッフも 13 名に増えました。
私一人の夢だった「日本一の卓球の街の実現」は、今ではスタッフ全員の共通目標となっています。

八潮店

草加卓球場

卓球家 840 では、

- 店舗・WEBでの卓球用品販売
- 卓球場の運営
- 元ラバー職人としての知識を活かした用具提案
- WEBでは硬度・重量指定のラバー販売・ハンドソウの販売
- ジュニア育成（2025 年は小学生 5 名、中学生 1 名が県代表で全国大会へ）
- T・T彩たまのスポンサーを初年度より 7 期務めています(現在も継続中)

など、地域に根ざした活動を続けています。これからも地元・八潮／草加の発展に貢献し、卓球の普及に全力で取り組んでまいります。

全国大会出場を決めた子供たち

840 ジュニア集合写真

お客様、生徒さん、子どもたち、保護者の皆様、メーカーの方々、スタッフ、そして家族への感謝を忘れず、歩み続けたいと思います。